

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ/堀水潤一 撮影/松田康司

ものづくり大学 学長 神本武征



アナログとデジタルの両方に精通した テクノロジストこそ ものづくりの現場で求められています

ものつくり大学は英語名を
“Institute of Technologists”と
表記します。あまり一般的ではありません
がテクノロジストとは、知識と技能を
あわせもった技術者のこと。単なるエンジ
ニアやテクニシャンではありません。ではエ
ンジニアとテクニシャンとは何か。普通、
研究・開発・設計、生産などの仕事に携
わるとエンジニアと呼ばれます。片やテ
クニシャンとは、私の理解では、できあが
った機械をメンテナンスする人のこと。
大雑把に言えば前者は理論、後者はハン
ドワークを得意とします。けれど実際に
はエンジニアでも技能が必要であり、生
産の現場は知識と技能の両方に通じた
プラクティカルなエンジニア、すなわちテ
クノロジストを強く求めています。

その養成を目的に11年前に設置され
たのが本学であり、そこに一般の理工系
大学、あるいは専門学校や職業訓練校
とも違う大きな特長があるのです。本
学のカリキュラムでは、鋳物や板金等の
授業も含め、あえて実習や実験に時間
を割き、技能教育に力を入れています。
こうしたアナログ的な授業も企業から
高く評価されています。現代のものづく
りはコンピュータでデザインし、そのま
ま機械で加工するといったデジタルものづ
くりが主流となっていますが、こうした
デジタルものづくりにおいても、実際には
ベースとしてアナログ的な技能と知識が
必要なのです。

世の中が進歩し、作る対象や手法が
変わっても、物事にアプローチする態度

【学長プロフィール】かみもと たけゆき●1939年生まれ。東京工業大学理工学部卒業、同大学院理工学研究科修士課程修了。工学博士(東京工業大学)。東京工業大学教授、同大学工学部長、東海大学教授などを経て、2008年より現職。

【大学プロフィール】2001年開学。製造学科(先進加工技術コース、機械デザインコース、電気電子・ロボットコース、情報・マネジメントコース)、建設学科(木造建築コース、都市・建築コース、仕上・インテリアコース、建築デザインコース)

や根幹的な能力が大きく変わるわけでは
ありません。大切なのは基礎がしっかり
し、応用が利くこと。今、検討してい
るのは基礎から応用へ進む従来型のカ
リキュラムの見直しです。低学年次に数
学や物理を学んでも高学年次で忘れる
ケースがあります。基礎の成果を応用
に結びつけるべく両者を並行して行う
新たな教育モデル“Parallel Learning
of Theory and Practice”を構想してい
るところです。

国際会議などで海外に行くと、私は
いつも文化の違いを感じます。考え方や
生き方の違いに気づかされることも少
なくありません。グローバルゼーションが
進むにつれて、若者の国際志向が停滞し
ているという話をよく耳にします。留学
を希望する学生は減り、海外赴任を募
つても手を挙げない。これでは世界で生
き残れません。日本の企業に就職する
場合も外国人と競う時代です。120
0人中、日本人の採用は200人だけと
いう企業もあります。特に機械関係の
業種は日本語力がそう重視されないた
め、もたもたしていたら席はすぐに埋ま
ってしまいます。若い皆さん、ぜひ海外に
出かけて自分自身を育ててください。国
際化に怖気づくことなく、世界で活躍
してください。